

(兼題)

「飾る」

岡 あきら 選

佳句

街路樹の眠りを覚ますクリスマス
スツピンで飾り気のない友が好き
飾りなどいらぬ自然の村が好き
さっぱりと飾り気のない人が好き
虚飾みな落して山は冬の貌

利彦
あけ美
健柳
たえこ
寿美

人

千両を活けて一気に新春の風

佐藤あけ美

地

古里に錦を飾り帰郷する

岡田 祐次

天

臥す母の視線に飾る福寿草

伊藤 玲峰

軸吟

仏にも正月ですよ鏡餅

岡 あきら

(兼題)

「守る」

小豆沢歌子 選

佳句

守ったり守られたりの長い旅
よたよたの歩みを守る杖一本
守るものそれは家族と言う宝
お互いに守り守られ生かされる
九条に問う日本を守る術

あきら
玲峰
桂子
久子
ちかし

人

妻や子を守る男気なら負けぬ

竹治ちかし

地

あたたかく守ってくれる母の海

多久和敬子

天

独り居をそっと見ている木守柿

伊藤 寿美

軸吟

六十年あなた守ってきたわたし

小豆沢歌子

(兼題)

「言葉」

竹治ちかし 選

佳句

避難所でもらうお言葉温かい
同窓会少女にもどる出雲弁
方言がすぐに行き交うクラス会
直球の友の苦言が的を突く
言葉には言えない程の嬉しい日

寿美
あけ美
のぼる
寿美
歌子

人

ひと言の重みゆっくり効いて来る

岸 桂子

地

ひと言が今もわたしの胸にある

岸 桂子

天

愛してるそのひと言で生きている

吉川らんまん

軸吟

身に染みる言葉の裏に覗く愛

竹治ちかし

(兼題)

「皿」

今岡 健柳 選

佳句

独り居の小皿たたいて酒を飲む
大皿に好物盛った喜寿祝い
床の間に陣取っている大絵皿
私の好みの色を盛る絵皿
大皿に盛る海の幸山の幸

人

らんまん
鏡子
洋子
ちかし
博子

取り分けた銘銘皿にある個性

地

竹治ちかし

古希祝うピチピチ跳ねる皿の鯛

天

多久和博子

のど鳴らす具だくさん盛り丸い皿

軸吟

桐原 洋子

思い出の詰まった皿がよく動く

今岡 健柳

(兼題)

「ユーモア」

伊藤 玲峰 選

佳句

見合席ユーモアまじえて気をほぐす
ユーモアの溢れる友に救われる
ユーモアを時々出して生き延びる
ノリノリの気分ユーモアひとつ出る
ユーモアも入れて喜ぶ教え方

人

のぼる
たえこ
祐次
たえこ
洋子

ユーモアの中にヒントが隠れてた

地

小豆沢歌子

ユーモアに障子襖も大笑い

天

小豆沢歌子

ユーモアが一杯住んでいるノート

軸吟

岡 あきら

先生の渾名^{あだな}ユーモア利いている

伊藤 玲峰

(兼題)

「届く」

吉川らんまん 選

佳句

走者より先イチローの球届く
手の届く位置に鉛筆メモ用紙
良い知らせ届け届けと願かける
僕の城チエアから全部手が届き
近過ぎる君に届かぬ恋心

人

瑞人
桂子
あけ美
あきら
ちかし

百歳に届け元気な九十坂

地

岡田 祐次

炒り豆の臭いが届き福は内

天

伊藤 玲峰

届く足スライディングに期待する

軸吟

西坂 瑞人

誕生日百万本のバラ届く

吉川らんまん

(席題)

「雪」

竹治ちかし 選

人

新雪によるこび遊ぶ風の子よ
鯨幕空も悲しみ雪が舞う
雪景色さえも奪った温暖化

軸吟

今岡 健柳
伊藤 玲峰
錦織ゆきこ

蛍雪も知らぬ子供の手スマホ

竹治ちかし